

1. 略歴

1984年4月	東京大学文科Ⅲ類入学
1988年3月	東京大学文学部社会心理学専修課程卒業
1988年4月	株式会社 日本長期信用銀行 入行
1992年4月	東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻修士課程入学
1994年3月	同 修了 (修士(社会心理学))
1994年4月	東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程進学
1997年3月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻博士課程単位取得退学
1998年4月	京都大学総合人間学部基礎科学科 助手 (2000年3月迄)
1999年3月	東京大学大学院人文社会系研究科 博士 (社会心理学)取得
2000年4月	岡山大学文学部行動科学科 助教授
2001年4月	岡山大学大学院文化科学研究科産業社会文化学専攻 助教授 (兼任)
2004年4月	横浜国立大学経営学部 助教授
2005年4月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 助教授
2007年4月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 准教授
2011年4月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 教授
2011年10月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会心理学

b 研究課題

心と社会環境の相互構成過程の探究

- 1) 多元的無知による集団規範の維持過程
- 2) 文化的慣習の社会生態学的基盤
- 3) 組織文化・風土をめぐる諸問題

c 概要と自己評価

1) 集団規範の生成と再生産過程…人は周囲の他者の行動を観察し、特定の行動が共有されていると感じることによって、「規範」の存在を知覚する。人はその知覚に基づき、たとえそれが自らの選好とは異なっているとしても、規範にしたがった行動をとる傾向がある。この行動がさらに他者によって観察されることで、やがて、実際には誰も望んでいないはずの規範が予言の自己成就的に維持・再生産される。こうした「多元的無知」現象の共同主観的な相互規定メカニズムを検討することは、心の社会・文化的起源を探るうえで重要な意味をもつと考えられる。私たちは、実験室内にミニマルな規範伝達の連鎖を作り出すことで、このメカニズムに迫る試みを行っている。また、多元的無知の生起や伝播に影響を及ぼす社会環境の特質の探究も進めている。

2) 文化的慣習の社会生態学的基盤…ある社会や集団において、特定の慣習や思考様式が共有され、維持されている理由について体系的な検討を行うには、その慣習や思考様式を取り巻く生態環境の特質と歴史、環境に適応する過程で作られた特有の社会構造や人間関係のありよう、それらの維持・再生産に寄与する個々人の心理や行動の特質、といった諸変数間の関係を丹念に探り、描き出すことが必要となる。私たちは、社会の現場における慣習や思考様式の「事例」に焦点を当て、マイクロ・エスノグラフィーの研究方法论を用いてその生成・維持過程を継時的に追跡する試みを行っている。

3) 組織文化・風土をめぐる諸問題…国や民族といった大きなレベルの文化に比して、小規模で人の入れ替わりが頻繁に行われる企業組織の文化は、変化プロセスの把握が比較的容易であるため、心と文化に関わる理論構築に向けた検証が行いやすいという利点がある。私たちのこれまでの研究では、強い組織文化は組織変革にとって正負両面の効果をもつ（生産性向上のための学習を促進する一方で、環境変化に対応した柔軟な変革を抑制しうる）ことが示された。現在はさらに視野を広げ、各種の人事制度（ハード）と文化・風土（ソフト）の相互作用の様相や、それらが従業員心理・行動に与える多面的な影響過程についての検討を行っている。

自己評価

研究の実施にあたっては、研究室所属の大学院生はもとより、国内外の研究者（経営学・社会学・人類学等の関連他領域を含む）とも広く連携して、国際的・学際的な視野に立つ共同研究プロジェクトとしての展開に努めている。一部のテーマに関しては科学研究費の助成を受けている。いずれの研究テーマに関しても、その成果は随時、学会発表および学術論文として発信している。また、企業や地域共同体など、社会の現場に根差した研究を手がけていることから、実社会への研究成果の還元と、産学連携にも努めている。

d 主要業績

(1) 著書

編著、Maria Cecilia Gastardo-Conaco, Ma. Elizabeth J. Macapagal and Yukiko Muramoto (Eds.), 『Asian Psychology and Asian Societies in the Midst of Change. Psychological Association of the Philippines』、2017.8

分担執筆、村本由紀子、「社会と個人」繁樹数男 編著『心理学概論（公認心理師の基礎と実践 2）』、pp.161-176、遠見書房、2018.3

(2) 論文

岩谷舟真・村本由紀子・笠原伊織、「評判予測と規範遵守行動の関係：関係流動性に注目して」、『社会心理学研究』、第32巻2号、104-114頁、2016.11

村本由紀子・遠藤由美、「変わらずにいるために変わり続ける：環境変化と文化的慣習の維持過程」、『心理学研究』、第87巻5号、495-505頁、2016.12

Yukiko Muramoto and Kazuki Yamada、「The effects of psychological distance on dispositional attribution in Japanese culture.」、『M. C. Gastardo-Conaco, M. E. J. Macapagal, & Y. Muramoto (Eds.), Asian Psychology and Asian Societies in the Midst of Change』、101-125頁、2017.8

正木郁太郎・村本由紀子、「多様化する職場におけるダイバーシティ風土の機能、ならびに風土と組織制度との関係」、『実験社会心理学研究』、第57巻1号、12-28頁、2017.9

岩谷舟真・村本由紀子、「多元的無知の先行因についての検討：他者の選好推測に注目して」、『実験社会心理学研究』、第57巻1号、29-41頁、2017.9

岩谷舟真・村本由紀子、「規範遵守行動を導く2つの評判：居住地の流動性と個人の関係構築力に応じた評判の効果」、『社会心理学研究』、第33巻1号、16-25頁、2017.9

Shiho Futagami and Yukiko Muramoto、「A study on work attitudes of Japanese employees from the perspective of decent work」、『Journal Transition Studies Review』、24(2)、21-29頁、2017.12

今瀧夢・相田直樹・村本由紀子、「リーダーの暗黙理論がチーム差配に及ぼす影響：失敗した成員に対する評価に着目して」、『社会心理学研究』、第33巻3号、2018.3

(3) 学会発表

国際、Shuma Iwatani & Yukiko Muramoto、「Antecedent conditions of pluralistic ignorance: An experimental investigation on preference estimation and normative behavior.」、International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.25

国際、Ikutaro Masaki & Yukiko Muramoto、「The effects of workplace diversity and inclusive climate on employee morale in Japan.」、International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.27

国際、Kaori Enomoto, Atsushi Kawada, Kanta Uematsu, Shuma Iwatani, Tomoya Kawajiri, Eiichiro Watamura, & Yukiko Muramoto、「Effects of place attachment and perceived benefit-cost of community involvement on participation in crime prevention activities in a Japanese urban community.」、International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.27

国際、Yukiko Muramoto、「Effects of informal evaluation and feedback in daily communication on employees' work motivation.」、International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.29

国際、Ikutaro Masaki & Yukiko Muramoto、「Pluralistic ignorance about inclusive climate in organization: The effects of personal attitudes toward diversity and the estimated attitudes of others.」、International Association for Cross-Cultural Psychology, Nagoya, Japan, 2016.8.2

国際、Shuma Iwatani & Yukiko Muramoto、「The effects of relational mobility on reputation estimation and normative behavior.」、International Association for Cross-Cultural Psychology, Nagoya, Japan, 2016.8.2

国内、正木郁太郎・村本由紀子、「職場のダイバーシティの心理的影響と、組織風土の調整効果：性別とキャリア志向のダイバーシティに着目して」、日本社会心理学会第57回大会、関西学院大学、2016.9.17

国内、岩谷舟真・村本由紀子、「地域活動への参加を促進する要因(2)：流動性に注目して」、日本社会心理学会第57回大会、関西学院大学、2016.9.17

国内、相田直樹・村本由紀子、「暗黙理論が複数課題選択時の努力配分戦略に及ぼす影響」、日本社会心理学会第 57 回大会、2016.9.18

国内、二枝枝保・村本由紀子、「従業員のしごとと能力開発とキャリア・プランに関する研究: 日本企業とスイス企業の比較分析」、しごとと能力学会第 9 回大会、慶應義塾大学、2016.10.20

国際、Shuma Iwatani & Yukiko Muramoto、「The asymmetric perception of fairness on vicarious retribution between the retaliator and the retaliated.」、Asian Association of Social Psychology、Auckland, New Zealand、2017.8.27

国際、Keita Suzuki & Yukiko Muramoto、「Are incremental theorists always more "adaptive" than entity theorists?: Effects of implicit theories on the sensitivity to opportunity cost.」、Asian Association of Social Psychology、Auckland, New Zealand、2017.8.28

国内、正木郁太郎・村本由紀子、「職場の性別ダイバーシティの心理的影響とダイバーシティ風土の調整効果: 複数企業の比較による企業差と展望」、日本グループ・ダイナミクス学会第 63 回大会、東京大学、2017.9.30

国内、岩谷舟真・村本由紀子、「集団内地位と規範遵守行動の関係についての実験的検討」、日本社会心理学会第 58 回大会、広島大学、2017.10.28

国内、正木郁太郎・森行範・村本由紀子、「情緒的コミットメントはプロアクティブ行動を促すか: 人材流動性の調整効果」、日本社会心理学会第 58 回大会、広島大学、2017.10.29

国内、鈴木啓太・村本由紀子、「暗黙理論による課題選択方略の検討: 課題難易度に対する柔軟性に着目して」、日本社会心理学会第 58 回大会、広島大学、2017.10.29

国際、Shuma Iwatani & Yuiko Muramoto、「Trust and harmony-seeking orientation as key factors of cooperation.」、Society for Personality and Social Psychology、Atlanta, USA、2018.3.2

(4) 会議主催(チェア他)

国際、「The 23th Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology」、実行委員、Nagoya, Japan、2016.7.30 ~2016.8.3

国内、「日本グループ・ダイナミクス学会第 64 回大会」、ワークショップ企画(企業組織研究の最前線が抱える困難と可能性: 研究者と実務家, 双方の視点より)、東京大学、2017.9.30

国内、「日本グループ・ダイナミクス学会第 64 回大会」、実行委員、2017.9.30~2017.10.1

(5) 受賞

国内、岩谷舟真・村本由紀子、日本社会心理学会賞(奨励論文賞)、「多元的無知の先行因とその帰結: 個人の認知・行動的側面の実験的検討」、日本社会心理学会、2016.9.16

(6) 翻訳

共訳、Pushkala Prasad、「Crafting Qualitative Research: Working in the Postpositivist Traditions」、箕浦康子(監訳)ほか、『質的研究のための理論入門: ポスト実証主義の諸系譜』、2018.1

(7) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C)、村本由紀子(研究代表者)、「自他の認知の連続性と境界に関する多面的検討」、2016.4~2018.3(継続中)

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C)、村本由紀子(分担研究者: 代表者は東大外)、「戦略的人材開発の日欧比較研究: 産学官連携によるグローバル人材開発」、2016.4~2018.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、立正大学、「文化心理学」、2016.4~2016.9

非常勤講師、放送大学神奈川学習センター、「木を見る西洋人 森を見る東洋人」、2016.10~2017.3、2017.10~2018.3
セミナー、筑波大学附属高等学校、「進路説明会(社会学系分科会)」、2017.7